

3/4 令和3年度 第4回堺市立図書館協議会
会議録

令和3年度 第4回堺市立図書館協議会	
令和4年3月4日(金) 14時~15時 堺市立西図書館 2階 ラーニングスペース	
委員	中川幾郎会長、森美由紀副会長、北庄司愛浩委員、小松清生委員、 是住久美子委員(リモート参加)、飛石隆男委員、松原茂樹委員、 山尾真弓委員、吉原極委員、吉田富美委員(リモート参加)
事務局	浦部中央図書館長、有澤中央図書館総務課長、 湯川中央図書館総務課長補佐、眞鍋中図書館長、杉本東図書館長、 眞鍋西図書館長、白川南図書館長、三藤北図書館長、田中美原図書館長、 伊豫田企画情報係長、白川図書館サービス係長、輔信企画情報係副主査、 稲野企画情報係員
傍聴	8人
案件	令和3年度堺市立図書館サービス評価 各図書館の取組み状況(案)につ いて
その他	①令和4年度 図書館予算(案)について(報告) ②令和3年 堺市議会における質疑、答弁概要について(報告) ③令和3年度 図書館利用者アンケート調査の結果について(報告)

案件について	
発言者	内容
事務局	案件について説明
会長	ご指摘箇所等あれば挙手をお願いします。 本件については事務局に委員からいろいろとご意見寄せられており、丁寧で愛情のこもったご指摘が多いと思った。このようなご意見を参考に、来年度の図書館運営に生かしていただきたい。
委員	堺区の統計の中に図書館カウンター堺東や青少年センターなどが含まれている。北区に住んでいても、北図書館だけではなく中央図書館や図書館カウンター堺東、青少年センター図書室も利用する。区の人口との比較には意義があると思うが、特に堺区に関しては、この集計方法には疑問がある。

	<p>また、資料2の6番で学校図書館についての記述は「サービス方針(2) 学ぶ力のところで評価できるよう指標等をお示しします。」とあるが、ということか説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>ご指摘のあった堺区の図書館について、今回の取組の指標の方には、中央図書館、堺市駅前分館、図書館カウンター堺東の数値が入っている。図書館カウンター堺東は中央図書館が委託しているため堺区に含めている。堺区には他に青少年センター図書室と人権ふれあいセンター人権資料・図書室があるが、図書館法に基づく図書施設ではないため、図書館サービス評価には含めていない。移動図書館は全市におけるサービスということで堺区に含めていない。</p> <p>今回は各区の取組みについて取り上げたが、今後堺市全体のサービスについて取り上げる。</p> <p>学校図書館について、図書館サービス評価は前半が堺市立図書館全体の取組み、後半が各区の取組みという構成になっている。全体の取組みを評価する際に学校図書館に関することを評価していきたいと考えている。</p>
会長	<p>この案件については、ご意見のまとめと回答、質問のまとめと回答と2種類資料がある。目を通したうえでさらに詳しく知りたいという委員がいれば挙手をお願いします。</p> <p>(挙手なし)</p> <p>それでは、協議案件は最後に回し、後ほど発言いただくこととする。</p>

報告について	
発言者	内容
会長	事務局にまず2件の説明を求める。
事務局	令和4年度図書館予算(案)について説明。
事務局	令和3年堺市議会における質疑、答弁概要について説明
会長	<p>市議会における質疑、答弁概要について、審議会や協議会の場においては議会でどのような議論がされているか当然知っておかなければならない。</p> <p>資料には会派と質問された議員の個人名も掲載してもらいたい。</p>

3/4 令和3年度 第4回堺市立図書館協議会
会議録

事務局	資料は会派と議員名を記入したうえで再提出する。
会長	よろしく願います。 次に、来館者アンケートについて説明を求める。
事務局	令和3年度来館者アンケート結果について説明

案件について	
発言者	内容
事務局	案件について説明
会長	もう一度協議案件に議論を戻す。全員の意見をお聞きしたい。
委員	<p>中区の取組みについて、保護者向け講座の開催が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっている。目標の中で書かれているということは、今年度取り組んでいくものとしては大きなものだったと思うが、代替案はなかったか。</p> <p>今後も、コロナ禍で思うような事業ができないと思われるが、あらかじめ複数の方策を検討することが必要ではないかと考える。</p>
委員	<p>学校図書館協議会の会長をしているが、学校では例年図書館の方の読み聞かせ等の活動があるが、コロナ禍でここ2年ほどできていない。</p> <p>団体貸出等は実施していただいております、コロナ禍でも図書に興味を持つ子どもたちを増やしていきたい。</p>
委員	以前は青少年センター図書室なども家族が利用したりしていたが、最近あまり利用しなくなっている。身近な者から利用を勧めていきたい。
委員	評価に掲載されている内容ではないが、以前ラーニングスペースを行事開催のために利用させていただいた。気持ちのいいスペースができたことが喜ばしく、今後も利用していきたい。
委員	<p>利用者アンケート結果で10代、20代の利用が非常に少ないとある。このアンケートというのは来館された方の回答であり、若者が本を読まないという実情も考えれば、このアンケートはファンによる回答である。ファンではなく、潜在的に来てもらえる層にアプローチする方法を知りたい。Twitterも一つの方法ではあるが、どの館もTwitter一択となっている。インスタグラムなど他の方法も検討いただければと思う。</p>

委員	<p>サービスの具体的方向性「⑥青少年、高齢者、外国人など、いつでも、だれでも、どこからでも学べる環境を充実します。」ということで取り組んでいる図書館がいくつかあるが、各属性によって求めているものが異なるため、具体的にだれに対してかというところは明確にしていきたい。</p>
事務局	<p>様々な方が図書館を利用しているが、属性ごとにサービスを展開していくことが必要だとのこと指摘について、中央図書館をはじめ全館で取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>美原区が区民の比率で見ると高く、北区は低い。なぜそうなのか。北区は人口も多く子育て世代も大変多い中で1館しかないのは悩ましい問題であり、図書館としても、なぜなのかという踏み込んだ問題提起があってもいいのではないかと。</p> <p>また、来館者だけではなく、市民のニーズを調べるアンケートが必要ではないか。市民はどんな図書館なら利用したいのか。図書館の様々なサービスを積極的に宣伝するとともに、もっと踏み込んだアンケート調査をしてほしい。</p> <p>利用者についてもどの図書館を一番利用しているのか、今ある図書館について、どこが気に入っているのかなどももっと調べてはどうか。様々な方法で市民の声を反映した図書館づくりの努力が必要ではないか。</p> <p>最後に、評価の中の「市民との協働」について、線だけ引いて協働なしという評価になっているが、今後の大きな課題であると考えている。</p>
委員	<p>堺区の実績（案）を見てみると、Twitterやホームページの情報発信の強化というのがある。今の学生は見たいものにしかアクセスしない。今はどんなことに興味があるのか若い世代が今何に興味をもっているのかを取り上げてTwitterに発信するというのが戦略になる。</p> <p>他の図書館では情報支援としてゲームを提供するという事例がある。そのようなサービスをTwitterで発信してフォロワー数が大幅に増えたという話も聞く。そのように若い世代が何を求めているのか、図書館がどのような情報資源を提供したら若い人たちが飛びついてくるのか、その辺りの戦略も含めて検討していただきたい。</p> <p>また、資料3の図書館の予算案について、図書館資料購入の図書（電子</p>

	<p>書籍も含む)の項目が、令和3年度と令和4年度で同額になっている。ここ数年コロナ禍の影響で、電子書籍のコンテンツ数はかなり増えてきていると思われるが、紙媒体と電子書籍の比率が知りたい。電子書籍のコンテンツ数が増えるということは紙媒体の比率は減っているのではないか。</p>
事務局	<p>電子書籍の予算について、令和元年度までは100万、令和2年度からコロナ禍の影響で年間300万に増額した。その分、紙媒体の予算額は減額となっている。</p> <p>図書購入資料費は全体の予算のなかで確保しており、電子書籍分を増額すると、その代わり紙媒体の分は減額となる。全体の予算が増える状況ではなく、ご理解いただければと思う。</p>
会長	<p>委員として発言させていただく。</p> <p>堺市議会における質疑、答弁概要で「市民の利便性を高めるためには直営でも利用者ニーズを高められるのであれば別に直営でもかまわない」とある。私は民営化には慎重な検討が必要であると考えており、特に満足度という言葉は危険だと考えている。今回の評価でも満足度という言葉が出てくるが、これについては許容範囲であろう。</p> <p>今後満足度という言葉を使うときには、何に対する満足かということを明確にしていきたい。全体的な満足度などと言うと、皆が読みたがるものを揃えればそれでいいとなる。貴重な本を購入して利用して、後世の利用に役立たせるような「資産」となる選書ではなくなってしまう。</p> <p>「今の図書館が本当に社会教育施設としての役割を果たしているのか。この1点を軸に、ニーズをとらえた図書館運営、図書館制度の設計を構築していきたい。」これも、良い質問だと思う。ニーズというのはデマンドではない。必要課題のことであり、要求課題のことではない。ニーズを拾うアンケートをしてほしいと先ほど他の委員が述べたが、利用者アンケートはデマンドである。そういう意味では社会教育の技法を駆使して、たとえば市内に一人暮らしの人の割合やどの国やどのような生活実態の家庭が散在しているのか。職業別の分布なども把握できるとよい。際どいことではあるが、子どもたちの学力を知ることによって学校をバックアップするような図書館、学校図書館が子どもたちの学力アップのために頑張れるような図書館、ということが設計できないか。そのための調査ができないか事務局とも勉強していきたい。</p>

	<p>子どもをバックアップできる図書館、それから困っている人をバックアップできる図書館というイメージを持つことが必要ではないか。そのためにも社会調査をしてほしい。なぜ利用しないのか、なぜ認知していないのか、なぜもう一回行きたいと思わないのかということも大事な調査ではないか。それをしらみつぶしに押さえていくことが、良い図書館になる道ではないかと思う。</p> <p>ここで育つべき司書というのは、教育者にもなってもらいたい。その地に根付いて、その土地の人々と実際に交流する中で築いていく「生きた図書館」のために、今後様々な調査のデータ分析を行っていただきたい。</p>
案件終了	
事務局	<p>今後のスケジュールについて、令和3年度堺市立図書館サービス評価は委員の皆様から評価をいただいたうえで、令和4年度の8月をめどに完成を予定している。</p> <p>次回の開催は5月下旬から6月頃に、案件を堺市立図書館サービス評価及び令和4年度 of 取組目標や指標についてとして予定している。</p>
閉会	

署名委員の決定

森副会長 山尾委員